

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456	
法人名	(株)ささき	
事業所名	グループホーム みらい (1Fユニット)	
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1	
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 24 日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に取り組むようになって、3年目の春を迎えることになりました。ご家族との面会や外出が自由に出来ないようになり、どうやって利用者様の楽しみ事の支援を行うか考え、施設内で季節を感じるようなイベントを毎月のように取り組んだ1年でした。
 ・また、緊急事態宣言等で予定していた研修が中止になる等あって、講師を招く、あるいは外部研修に出向く、といった事は少なくなりましたが、オンラインによる研修に参加し学ぶ機会を設けました。外部研修となると1~2名程度の職員のみでの参加となる所、オンライン等では自宅や施設で参加可能となり、もっと大勢の職員が参加でき、認知症の利用者様について抱えている悩みなど専門講師に相談することが出来ました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106456-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 2 月 24 日

職員の意見を取り入れて、経営理念をリビングに掲示したところ、より一層、職員が感謝の気持ちを持ってケアすることができるようになった。食事は三食手作りで、「この食材は新鮮で、食べれる利用者が幸せだな」と呟く職員もいたくらいだ。燦爛と陽の降り注ぐリビングで、利用者は、鋏を使ったり、手作業で黙々と制作に取り組んだり、職員と一緒に包丁や菜箸を手にして、調理をしたりしており、『働き者』の多い活気のあるホームが、そこにあった。年4回みらい通信を家族や地域の代表者に配布することで、施設内の様子を伝え、地域との交流を大切にしている開かれたホームとなっている。オンラインで、気軽に家族や外部講師と繋がれる環境も整っており、変化に対応した事業所作りにも、取り組み続けているところに工夫が垣間見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールの見えやすい所に掲示。理念に基づき、利用者に関わる様努力している。また、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごしていただいている。	理念は、玄関、事務所、リビングに掲示しており、浸透させるため、年度初めに職員全員で振り返り、目標を立てている。年度末にも振り返ることで、浸透共有を図っている。新人職員には、半年かけてじっくりと現場の業務を行い、理念に触れて方向性を合わせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の資源ゴミ当番に参加。新型コロナの影響で、他の交流は行っていない。	町内会には入っていて、回覧板を回したり、ゴミ当番にも参加している。10年前から、他のGHとの交流もある。地域の公民館で展示会を実施した。今年は花がテーマで、毎年「すごいな」「きれいだな」と言ってもらえる。近隣住民とは挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館に近隣のGHと作品展示。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナの感染対策にて、全て書面会議で行った。	コロナ以前は、老人クラブ、連合町内会長、地域包括、事業者指導課、町内の組合員、利用者家族が参加していた。現在は書面会議にて開催し、書類を郵送で渡している。コロナ対策や外部評価の資料を提示して共有を図っている。	コロナ終焉後に、取り組めるリアルな形を構築する準備をしてみたいかかでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面会議だが、日々の取り組みや問題点を報告。実績など知っていただいたうえで、助言を頂いている。	指導課からはメールのやり取りがある。講義の誘いがあり、ズームを活用したことがある。窓口は統括管理者で、新しい有益な情報があれば教えてくれ、何でも話せる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、職員全員が意識している。運営推進会議、身体拘束適正化検討委員会で話し合い、職員全員が理解する様にしている。不適切ケアについては何度も話し合いをしている。	身体拘束はしない。年2回研修会を実施している。事例形式がメインの内容で、身体拘束に当たるかどうかを職員と家族や外部講師と相談して、拘束にならないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修のみだが、職員は虐待防止について、勉強会で学び、理解と共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は居ませんが、今後も学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書等の内容を説明し、理解・納得をして頂き締結にあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会、カンファレンス、運営推進会議等で意見、要望を聞けるように機会を持っている。	近隣の〇〇に行きたいという要望があれば、散歩がてらに連れていくこともある。家族からパーテーションをして、利用者の生活の様子を見れるようにしてはどうかの意見があり、コロナ感染状況が落ちつついたらする予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と統括とは年2回職員との個人面談する機会を設けている。要望や相談があれば述べている。可能な事は反映されている。	職員間の仲は良く、風通しが良い。ゲートキーパー役の職員がいるので、そこからも情報を得ることができる。管理者との面談もあるので、職員の意見も聞き取りやすい。また、管理者も職員も平等に休みが取れる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との個人面談での意見や要望を聞き取り、可能なものについては、改善し働きやすい環境整備に努めている。就業規則は何時でも見る事ができる所に置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は前年度に比べてとても少ない。内部研修は、月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、コロナの影響で回数は少ないが、メールや電話等で地域のGHの管理者と情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り要望を聞く様にし、入居後関わりを十分に持ち信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話で話をよく聞き、困っている事、不安や要望に耳を傾け、思い等確認し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をよく聞き、本人の現状もよく聞き必要な支援内容について提案、説明を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて出来る事を無理のない程度に手伝い等もっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や2ヶ月に一度の手紙で、近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、なかなか馴染みの人とは会えていない。	1階の庭や2階のテラスで食事をしたり、花に水やりをすることで新たな馴染みの場所が深まった。また、訪問看護も楽しみの1つあった。電話やズームでのやりとりも行き関係が途絶えないようにしている。年賀状に「私は元気です」と書いたら家族に喜んで頂いたこともある。	身近な馴染みの人や場所を新たに探してみたいか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を築けるよう席を決めている。気の合う者同士で過ごせる様に努め、トラブルにならない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、コロナの影響でなかなかお会いする機会ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話を通して、本人の思いや要望を把握し、可能な事は希望に添えるよう努めている。	担当職員が聞き取りを行い確認をしている。入浴時や居室内の1対1での場面で意見が出やすい。利用者の思いを「今の私」に取りまとめ、喜んでくれたことは、職員間で共有している。話さない人には、表情や傍にいてることで感じたことから、汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りやフェイスシート等で把握、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は記録に残し、気になる事は申し送る様にし、職員全員が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を聞き、介護計画を作成している。職員の意見も聞いている。又、状況の変化があれば、期間に捉われず見直しもしている。	入居時に作成したプランを、1ヶ月以内、何もなければ6ヶ月毎、何かあればその都度見直しを行っている。モニタリングは、6ヶ月に1回実施しており、必要があればケース会議を開催し、計画作成担当者の思いを職員間で情報共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践できた事は介護記録に残し、実践でできたかどうかは、介護支援チェックシートを活用し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族共に会うこともままならず寂しい思いをされているので、ご家族には毎月の利用料の請求書を発送する際、日常のお写真を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でほとんどできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院できる利用者は、職員が付き添う。通院が難しい方は、往診していただいている。同行して下さる家族もいる。	かかりつけ医は、ほとんどの方が転医される。ドクターとは何でも言える関係ができていることで、縁は深く馴染みの人になっている。他科へは基本、家族が連れていくが、職員も同行して、情報共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に1回/wの健康チェックを行なってもらい、指示、指導を受け、日常的な健康管理を行っている。気付いた事は、看護師に伝え相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は本人の情報を提供し、入院中は面会に行き、医療関係者や、家族から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には事前に医師、看護師、家族と話し合いはしている。説明した時は確認書にサインをもらっている。また、必要に応じて再確認している。	ターミナルは行っている。年1回、重度化の研修をしている。看取りの勉強会の実施や看護師の意見を参考にし、自分が後悔しないよう看取りができるようにしている。荷物整理の際に、家族との意見を交換することで振り返りの場となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は訪問看護師の指導で訓練している。何が起きても対応できるよう意識し仕事をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回火災・地震・水害の避難訓練を行なっている。どうすれば安全に避難できるか？また、どう改善すればいいか？その都度振り返り安全策を模索している。	年4回、おもに夜間想定で利用者と一緒に実施した。避難経路は玄関、連絡網は事務所に掲示していて、マニュアルも整備されている。備蓄は水、味噌汁、ご飯が3日分だが、7日分に変更を予定している。期限間近のものは、職員や利用者と一緒に食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや関わりには気を付けている。特に排泄時は、他者が入らない様気配りしている。	呼称は苗字に「さん」付けで、同姓の場合は、家族や本人了承の基、下の名前でお呼びする。入室時にはノックをして了解を得たり、肌が露わになる場合は、タオルをかけて見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、会話をする事で思いを汲み取り、可能な事は実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールに沿って生活しているが、自由な時間には、好きなテレビを見たり、本人のしたい事を出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度散髪の訪問を利用している。衣類の選択等できる方は自分でしていただく。できない人は、髭剃りや整髪を介助したり衣類の選択を支援している。また、食べこぼし等で汚れた時は、その都度着替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き等、個々の能力に応じて出来る事をしていただいている。旬の食材や彩りにも気を付けて盛り付けをしている。	朝食の副食のみケイタリング。新鮮な食材を入荷しているので、新入職員が「この食材は新鮮で食べれる人は幸せだな」と言っていた。職員が腕を振っていると、利用者は「今日は何作るん？」と楽しみに寄ってくる。皮むきや炒める作業と一緒に手伝ってくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、必要に応じて水分量をチェックし気をつけている。栄養バランスを考えた献立を作り、嚥下能力に合わせた食事形態で提供し、必要量摂取できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助の必要な方は職員が介助。2回/W義歯洗浄剤を使用。訪問歯科を利用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が増えたからといってすぐに紙パンツや大きいパットに変えるのではなく排泄リズムの確保に努めオシメの使用を減らす様に心掛けている。	トイレは各ユニット3カ所ある。失敗した方には、手招きで誘導したり、臭いで察知したりして、失敗とは言わずに「トイレに行こう」と小声で言葉をして誘導している。排便チェック表を活用しながら、起床時や食事前など決まった時間に誘導することで失敗を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1ℓ以上の水分摂取や毎日の体操を行っている。便秘気味な方は、3～4日に一度は便が出る様便秘薬で調整している。適度な運動の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日時は大体決まっているが、本人の気がすまない時は、時間をずらして再度声掛けする。違う職員が声を掛けたり、別の日に入浴してもらっている。	週2～3回。浴槽は個浴とシャワー浴で、脱衣所は日差しが入るので明るくカラッとしている。季節湯でゆずと菖蒲を提供したこともあり、ゆず湯は利用者に好評だった。嫌がる人には、日時や人を変えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝を促し、休息をとるようにしている。日中はなるべく身体を動かしたり、穏やかに過ごせるよう支援し、夜間の安眠に繋がる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が内服している薬、副作用、用法等確認し理解している。日々の様子観察で変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーの好きな方は昼食後に飲んでもらっている。洗濯物干し、縫い物が出来る方は、していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響でほとんど外出できていない。が、お散歩の好きな利用者もおられるので、近所を散歩したりしている。	散歩に行きたいと言った利用者に対して、ドライブがてら紅葉を見に行ったことがある。室内で出来ることをしようと模索した結果、ボール投げ、仮装大会、輪投げ、ペットボトルボーリングを開催し、外出支援に代わる取り組みを行った。現在は、食後廊下を歩いたり、テラスや庭の散歩、朝日を拝むのが習慣になっている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり保管・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望あれば、家族に電話するようにしている。その時、本人と代わり話をする事もある。自らかけたりする事はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保っている。騒音や声のトーン、大ききで不穏になりやすいので、気を付けている。季節感を出す壁面など工夫している。	ひなまつりのハンドメイド作品が飾っていて、季節を感じられる壁面となっている。家族や利用者の要望で了解を得た上で、利用者の名前や年齢を掲示することで、利用者同士が交流を深められるように工夫している。書初めや行事の写真を掲示していて、そこには利用者の笑顔の様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で歩ける方は自由に居室に戻り、ゆっくりしている事もある。又、ソファーでおしゃべりしたり、好きな時代劇を観たり、新聞を読んで思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを設置したり、本人の好む物を居室に置いている。ぬいぐるみが好きな利用者は、居室でぬいぐるみと会話をしている。	室内はエアコンで温度調整をしている。洋室だが利用者と家族の好みに応じて、畳屋さんを呼んで採寸された畳を敷かれた部屋もある。壁面には、誕生日の色紙や、家族の写真、ひ孫からの手紙があり、ハンドメイドが得意な方は、自分の作品を大切に飾ってあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さを利用者に合わせたり、トイレの手すりの位置が使いやすい方を使ってもらうなど利用者が安全に可能な範囲で自立できるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456	
法人名	(株)ささき	
事業所名	グループホーム みらい (2Fユニット)	
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1	
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 24 日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に取り組むようになって、3年目の春を迎えることになりました。ご家族との面会や外出が自由に出来ないようになり、どうやって利用者様の楽しみ事の支援を行うか考え、施設内で季節を感じるようなイベントを毎月のように取り組んだ1年でした。
 ・また、緊急事態宣言等で予定していた研修が中止になる等あって、講師を招く、あるいは外部研修に出向く、といった事は少なくなりましたが、オンラインによる研修に参加し学ぶ機会を設けました。外部研修となると1~2名程度の職員のみでの参加となる所、オンライン等では自宅や施設で参加可能となり、もっと大勢の職員が参加でき、認知症の利用者様について抱えている悩みなど専門講師に相談することが出来ました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370106456-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 2 月 24 日

職員の意見を取り入れて、経営理念をリビングに掲示したところ、より一層、職員が感謝の気持ちを持ってケアすることができるようになった。食事は三食手作りで、「この食材は新鮮で、食べられる利用者が幸せだな」と呟く職員もいたくらいだ。燦爛と陽の降り注ぐリビングで、利用者は、鋏を使ったり、手作業で黙々と制作に取り組んだり、職員と一緒に包丁や菜箸を手にして、調理をしたりしており、『働き者』の多い活気のあるホームが、そこにあった。年4回みらい通信を家族や地域の代表者に配布することで、施設内の様子を伝え、地域との交流を大切にしている開かれたホームとなっている。オンラインで、気軽に家族や外部講師と繋がる環境も整っており、変化に対応した事業所作りにも、取り組み続けているところに工夫が垣間見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホールの見えやすい所に掲示。理念に基づき、利用者に関わる様努力している。また、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごしていただいている。	理念は、玄関、事務所、リビングに掲示しており、浸透させるため、年度初めに職員全員で振り返り、目標を立てている。年度末にも振り返ることで、浸透共有を図っている。新人職員には、半年かけてじっくりと現場の業務を行い、理念に触れて方向性を合わせるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の資源ゴミ当番に参加。新型コロナの影響で、交流はなかなか行えないが利用者の貼り絵作品の展示を秋に公民館でさせて頂いた。この件は毎年続ける事が出来ている。	町内会には入っていて、回覧板を回したり、ゴミ当番にも参加している。10年前から、他のGHとの交流もある。地域の公民館で展示会を実施した。今年には花がテーマで、毎年「すごいな」「きれいだな」と言ってもらえる。近隣住民とは挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の協力のもと、地域のグループホームと共同で利用者の作品を地域の人に見てもらう事ができた。今年新たに西包括支援センター職員主催の地域の認知症の人との会に利用者が参加された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナの感染対策にて、書面開催を行っている。身体拘束に関すること行事の参観等委員の方から意見を頂くことができた	コロナ以前は、老人クラブ、連合町内会長、地域包括、事業者指導課、町内の組合員、利用者家族が参加していた。現在は書面会議にて開催し、書類を郵送で渡している。コロナ対策や外部評価の資料を提示して共有を図っている。	コロナ終焉後に、取り組めるリアルな形を構築する準備をしてみたいか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナに関する連絡が殆どであるが、「事業所対応向上講師派遣事業」の利用を申し込みzoomで利用者についての悩みを相談することができた	指導課からはメールのやり取りがある。講義の誘いがあり、ズームを活用したことがある。窓口は統括管理者で、新しい有益な情報があれば教えてくれ、何でも話せる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議、身体拘束適正化検討委員会等で話し合いを行っている。利用者の居室の鍵については意見も頂き、全ての職員は内容について周知できている	身体拘束はしない。年2回研修会を実施している。事例形式がメインの内容で、身体拘束に当たるかどうかを職員と家族や外部講師と相談して、拘束にならないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修のみだが、職員は虐待防止について、勉強会で学び、理解と共有に努めている。12月に虐待防止委員会を設置した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は、オンライン研修にて権利擁護について参加した。現在成年後見を必要とする利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書等の内容を説明し、理解・納得をして頂き締結にあたっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため家族のイベント参加が出来ず、イベント等への参観ができれば、とその方法など家族から意見をもらった。まだ実現には至っていないがその方向で進めている	近隣の〇〇に行きたいという要望があれば、散歩がてらに連れていくこともある。家族からパーティーションをして、利用者の生活の様子を見れるようにしてはどうかの意見があり、コロナ感染状況が落ちつつある予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者とは年2回職員との個人面談する機会を設けている。要望や相談があれば述べている。可能な事は反映されている。	職員間の仲は良く、風通しが良い。ゲートキーパー役の職員がいるので、そこからも情報を得ることができる。管理者との面談もあるので、職員の意見も聞き取りやすい。また、管理者も職員も平等に休みが取れる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との個人面談での意見や要望を聞き取り、可能なものについては、改善し働きやすい環境整備に努めている。就業規則は何時でも見る事ができる所に置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍の為ウェブ研修による参加で行っている。内部研修は、月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、コロナ禍の為メールによる情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り要望を聞く様にし、入居後関わりを十分に持ち信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話で話をよく聞き、困っている事、不安や要望に耳を傾け、思い等確認し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をよく聞き、本人の現状もよく聞き必要な支援内容について提案、説明を行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて出来る事を無理のない程度に行って頂き、利用者によっては毎日の自分の仕事と思い、やり遂げて下さっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は電話や2ヶ月に一度の手紙で、家族に近況報告している。コロナ禍で面会が少なくなったが、利用者からあるいは家族から電話で話す機会は増え、またzoom面会でお話されている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、なかなか馴染みの人とは会えていない。	1階の庭や2階のテラスで食事をしたり、花に水やりをすることで新たな馴染みの場所が深まった。また、訪問看護も楽しみの1つあった。電話やズームでのやりとりも行い関係が途絶えないようにしている。年賀状に「私は元気です」と書いたら家族に喜んで頂いたこともある。	身近な馴染みの人や場所を新たに探してみたいか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係を築けるよう席を決めている。気の合う者同士で過ごせる様に努め、トラブルにならない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナの影響でなかなかお会いする機会ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話を通して、本人の思いや要望を把握し、可能な事は希望に添えるよう努めている。毎年「今の私」を担当スタッフに作成してもらっている	担当職員が聞き取りを行い確認をしている。入浴時や居室内の1対1での場面で意見が出やすい。利用者の思いを「今の私」に取りまとめ、喜んでくれたことは、職員間で共有している。話さない人には、表情や傍にいることで感じたことから、汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りやフェイスシート等で把握、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は記録に残し、気になる事は申し送る様にし、職員全員が現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を聞き、介護計画を作成している。職員の意見も聞いている。又、状況の変化があれば、期間に捉われず見直しもしている。	入居時に作成したプランを、1ヶ月以内、何もなければ6ヶ月毎、何かあればその都度見直しを行っている。モニタリングは、6ヶ月に1回実施しており、必要があればケース会議を開催し、計画作成担当者の思いを職員間で情報共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践できた事は介護記録に残し、実践できたかどうかは、介護支援チェックシートを活用し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で利用者の生活の様子が見えなため、お手紙を出す月には必ず利用者の写真も付けて送っている。また、イベントや日々の生活の様子を撮ったDVDを今年も家族に送る予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で殆どできていないが、一部の利用者が、認知症の人の集まりの会に参加し包括支援センター職員協力のもと来年「戦争体験」について語る機会がある予定		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院できる利用者は、職員が付き添う。通院が難しい方は、往診していただいている。同行して下さる家族もいる。	かかりつけ医は、ほとんどの方が転医される。ドクターとは何でも言える関係ができていることで、縁は深く馴染みの人になっている。他科へは基本、家族が連れていくが、職員も同行して、情報共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に1回/wの健康チェックを行なってもらい、指示、指導を受け、日常的な健康管理を行っている。気付いた事は、看護師に伝え相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の情報を提供し、入院中は電話やウェブにより様子を知るようにしている。退院時には少人数ではあるが退院時のカンファを行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には事前に医師、看護師、家族と話し合いはしている。説明した時は確認書にサインをもらっている。また、必要に応じて再確認している。	ターミナルは行っている。年1回、重度化の研修をしている。看取りの勉強会の実施や看護師の意見を参考にし、自分が後悔しないよう看取りができるようにしている。荷物整理の際に、家族との意見を交換することで振り返りの場となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は訪問看護師の指導で勉強会を行っている。、何が起きても対応できるよう意識し仕事をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回火災・地震・水害の避難訓練を行なっている。避難訓練の都度振り返り安全策を模索している。今までは実地訓練だけであったが、昨年度からは机上での訓練も行うようになった	年4回、おもに夜間想定で利用者と一緒に実施した。避難経路は玄関、連絡網は事務所に掲示していて、マニュアルも整備されている。備蓄は水、味噌汁、ご飯が3日分だが、7日分に変更を予定している。期限間近のものは、職員や利用者と一緒に食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや関わりには気を付けている。特に排泄時は、他者が入らない様気配りしている。	呼称は苗字に「さん」付けで、同姓の場合は、家族や本人了承の基、下の名前でお呼びする。入室時にはノックをして了解を得たり、肌が露わになる場合は、タオルをかけて見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け、会話をする事で思いを汲み取り、可能な事は実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールに沿って生活しているが、自由な時間には、好きなテレビを見たり、本人のしたい事を出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度散髪の訪問を利用している。衣類の選択等できる方は自分でしていただく。できない人は、髭剃りや整髪を介助したり衣類の選択を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き等、個々の能力に応じて出来る事をしていただいている。旬の食材や彩りにも気を付けて盛り付けをしている。	朝食の副食のみケイタリング。新鮮な食材を入荷しているので、新入職員が「この食材は新鮮で食べれる人は幸せだな」と言っていた。職員が腕を振っていると、利用者は「今日は何作るん？」と楽しみに寄ってくる。皮むきや炒める作業と一緒に手伝ってくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、必要に応じて水分量をチェックし気をつけている。栄養バランスを考えた献立を作り、嚥下能力に合わせた食事形態で提供し、必要量摂取できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助の必要な方は職員が介助し行っている。訪問歯科診療を利用するため治療やケアについての指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が増えたからといってすぐに紙パンツや大きいパットに変えるのではなく排泄リズムの確保に努めオシメの使用を減らす様に心掛けている。	トイレは各ユニット3カ所ある。失敗した方には、手招きで誘導したり、臭いで察知したりして、失敗とは言わずに「トイレに行く」と小声で言葉をして誘導している。排便チェック表を活用しながら、起床時や食事前など決まった時間に誘導することで失敗を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1ℓ以上の水分摂取や毎日の体操を行っている。便秘気味な方は、3～4日に一度は便が出る様便秘薬で調整している。適度な運動の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日時は大体決まっているが、本人の気がすまない時は、時間をずらして再度声掛けする。違う職員が声を掛けたり、別の日に入浴してもらっている。	週2～3回。浴槽は個浴とシャワー浴で、脱衣所は日差しが入るので明るくカラッとしている。季節湯でゆずと菖蒲を提供したこともあり、ゆず湯は利用者に好評だった。嫌がる人には、日時や人を変えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は昼寝をし休息される利用者が多い。日中はなるべく身体を動かしたり、穏やかに過ごせるよう支援し、夜間の安眠に繋がる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が内服している薬、副作用、用法等確認し理解している。日々の様子観察で変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーの好きな方が多く昼食後に飲んでもらっている。洗濯物干し、縫い物が出来る方は、して頂いている。コロナ禍で外出が困難なため遊びを通しての運動などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が困難ではあるが利用者の希望で秋には数カ所少人数でドライブし気分転換された。	散歩に行きたいと言った利用者に対して、ドライブがてら紅葉を見に行ったことがある。室内で出来ることをしようと模索した結果、ボール投げ、仮装大会、輪投げ、ペットボトルボーリングを開催し、外出支援に代わる取り組みを行った。現在は、食後廊下を歩いたり、テラスや庭の散歩、朝日を拝むのが習慣になっている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり保管・管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望があれば、家族に電話するようにしている。コロナ禍のためウェブでお話している利用者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保っている。騒音や声のトーン、大ききで不穏になりやすいので、気を付けている。季節感を出す壁面など工夫している。	ひなまつりのハンドメイド作品が飾っていて、季節を感じられる壁面となっている。家族や利用者の要望で了解を得た上で、利用者の名前や年齢を掲示することで、利用者同士が交流を深められるように工夫している。書初めや行事の写真を掲示していて、そこには利用者の笑顔の様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分で歩ける方は自由に居室に戻り、ゆっくりしている事もある。又、ソファーでおしゃべりしたり、好きな時代劇を観たり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビを設置したり、本人の好む物を居室に置いている。ぬいぐるみが好きな利用者は、居室でぬいぐるみと会話をしている。写真を沢山貼っている利用者もいる。	室内はエアコンで温度調整をしている。洋室だが利用者と家族の好みに応じて、畳屋さんを呼んで採寸された畳を敷かれた部屋もある。壁面には、誕生日の色紙や、家族の写真、ひ孫からの手紙があり、ハンドメイドが得意な方は、自分の作品を大切に飾ってあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さを利用者に合わせたり、トイレの手すりの位置が使いやすい方を使ってもらうなど利用者が安全に可能な範囲で自立できるように配慮している。		